



人が集まる「人」をつくる、大学。



SHIKOKU UNIVERSITY

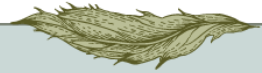
四国大学

生活科学部 人間生活科学科

---

海陽町「苔アート」

# 目次・発表者



1. 概要(内海)
2. 当日までの授業や準備(山田)
3. デザイン(田宮・高力・小川)
4. 当日の現地作業(清水・青木)
5. 実施後の自己評価(平川・林)
6. 活用と提案(サラム・上中・玉橋)
7. 感想とまとめ (佐々木)



# 概要

## ◆ 事業内容

四国大学 生活科学部 人間生活科学科 3年生後期  
「フィールド研究」の授業  
海陽町地域活性化を目的とする「苔アート」の制作

## ◆ 当日に向けた準備の流れ

現地調査→ミーティング→原案制作→デザイン決定→現地制作活動



# 授業スケジュール



- 9/28 海陽町役場 産業振興課 ご担当者様による海陽町のご紹介・事業説明
- 10/7 海陽町フィールドワーク/海部高校美術部生達と対面ミーティング
- 10/12 現地調査の報告・情報整理/苔アートデザインについてミーティング
- 11/9 リモートにて個人プレゼンテーション発表
- 11/16 原案最終決定・ブラッシュアップ
- 12/14 事前準備
- 12/16,17 現地で苔アート制作作業

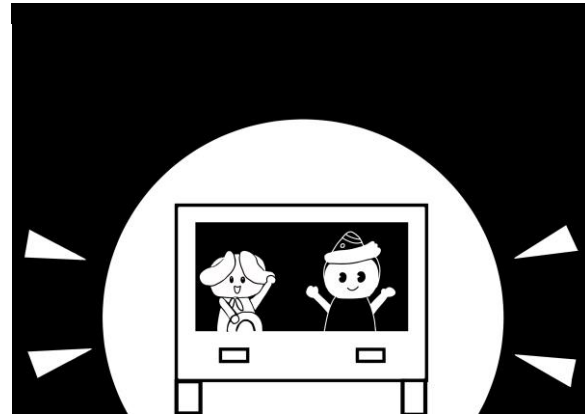
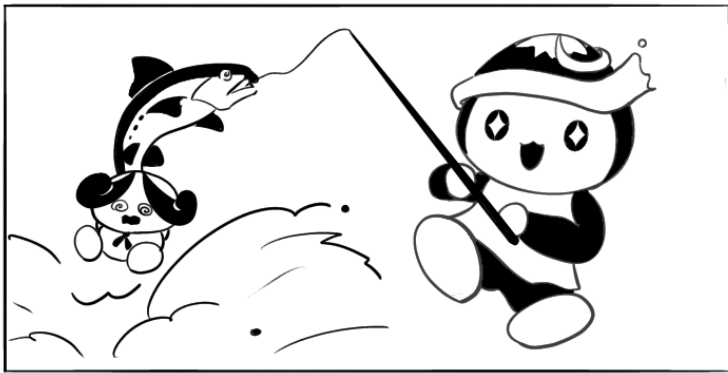
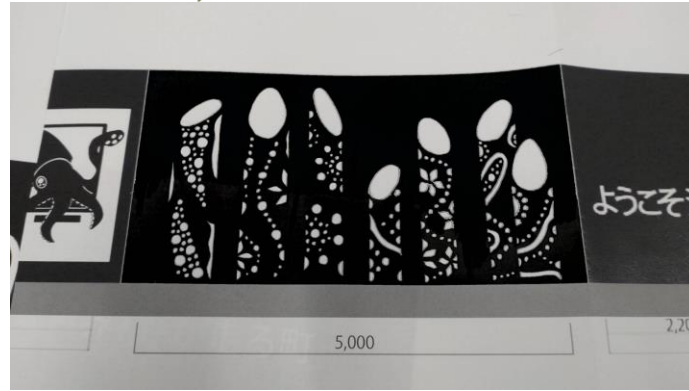
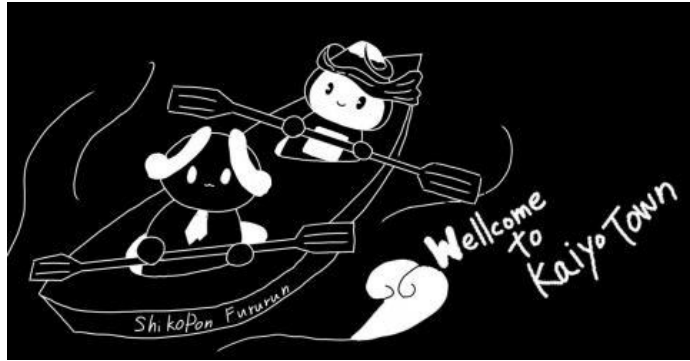
# デザイン案の概要

## 海部高校美術部のデザイン案

- ・阿波踊り
- ・だんじり祭り
- ・お神輿
- ・刀
- ・滝
- など



# 履修生デザイン案

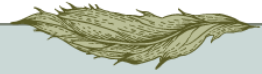




デザインコンセプト：海とお祭り

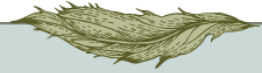
・一昨年と昨年作品だけでも十分に海陽町の特産品や見どころなどについては十分に伝わると  
思うので、今回はふるるんとしこぽんをメインに据えることでキャラクターの知名度アップする  
ことを目標として作成した。

# 一日目：作業様子

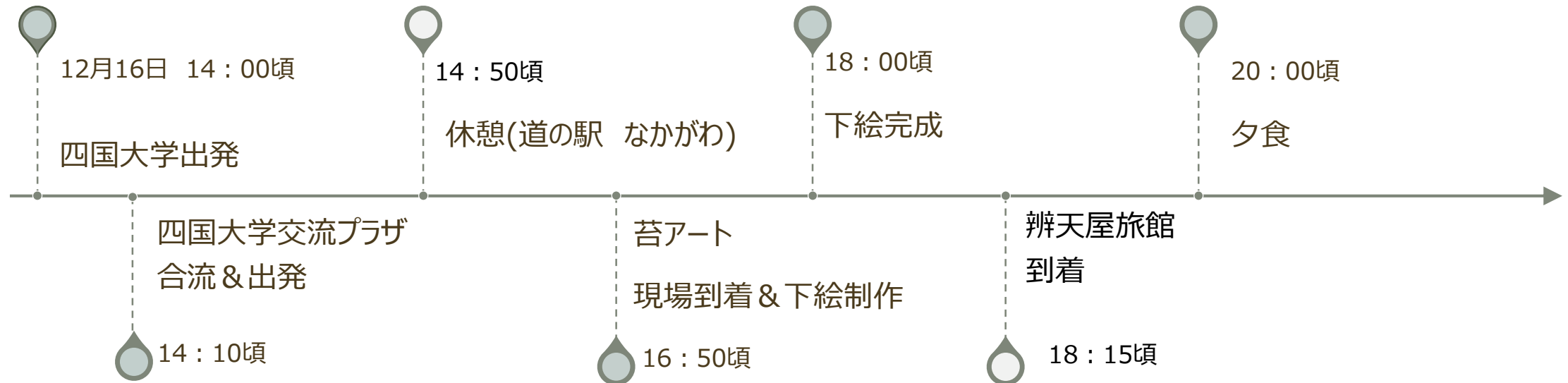
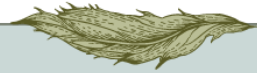




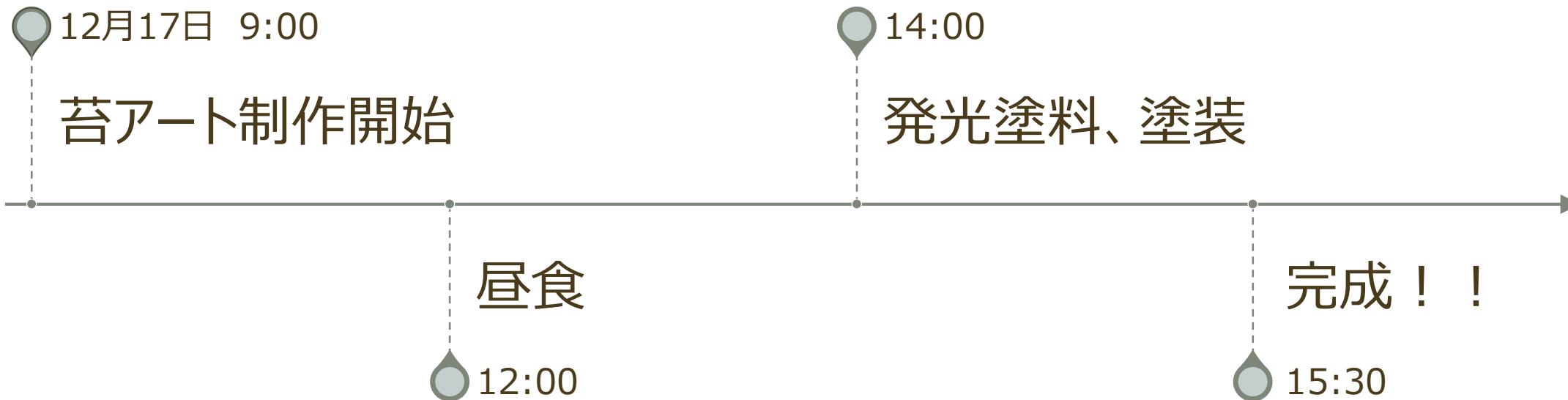
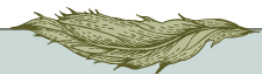
# 下絵 完成型



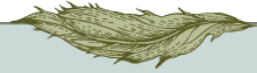
# 当日の動き(一日目)



# 当日の動き(2日目)



# 当日の動き



苔を削る様子



メンテナンスの様子

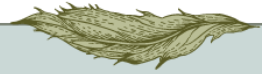


発光塗料を塗る様子



同時進行

# 完成形



メンテナンスしたもの



# デザイン案の概要

## 海部高校美術部のデザイン案

- ・阿波踊り
- ・だんじり祭り
- ・お神輿
- ・刀
- ・滝
- など



# 苔アートをやってみて



下描きの段階から  
慎重にするべきだと痛感

残すべき苔が崩れてしまう  
ことがありつつも  
それをカバーする連携が  
とれていた

デザイン再現が想像以上

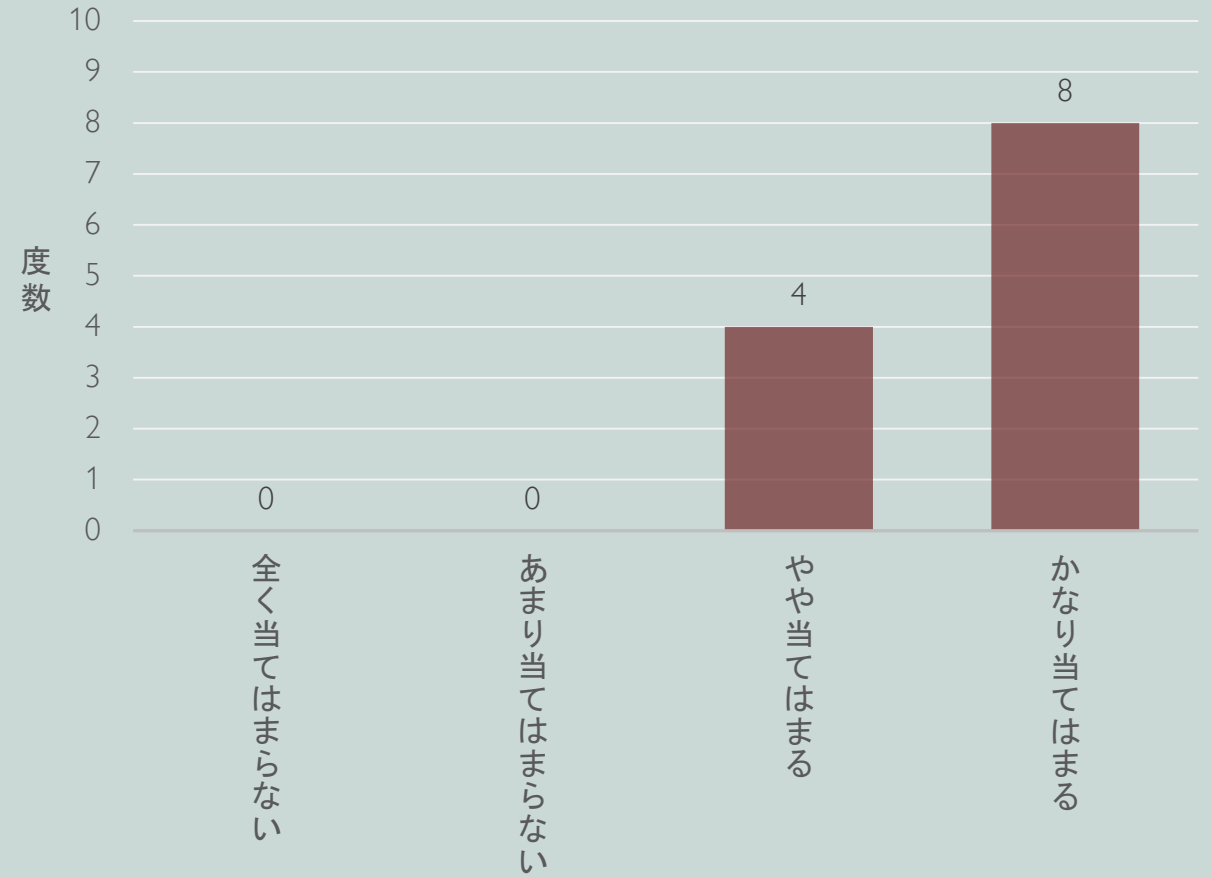
大人数で一つの作品を  
作るという貴重な体験の象徴

苔アートを通じて  
海陽町への地域貢献ができた

# 実施後の自己評価(達成度)



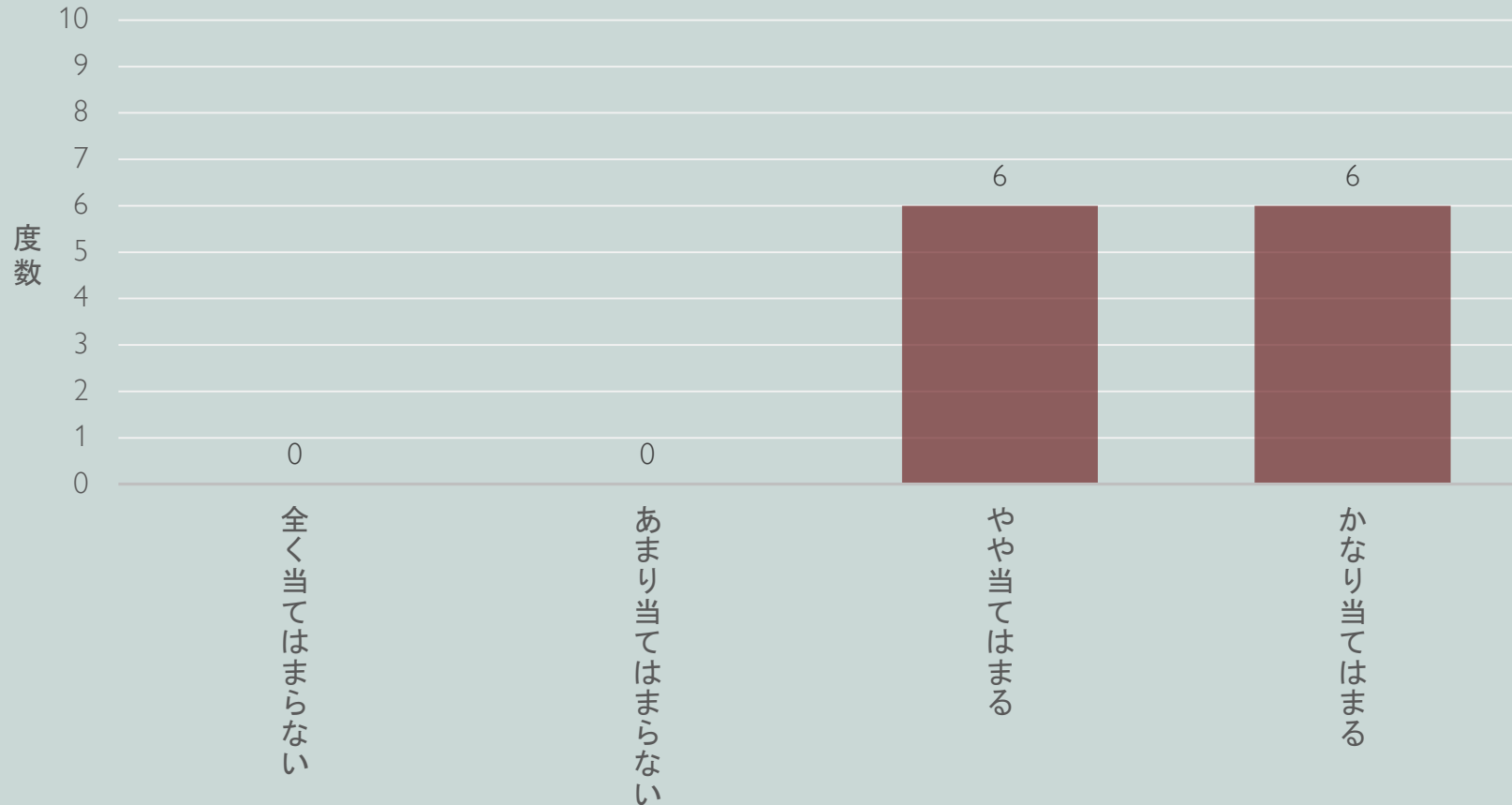
1. チームで作業することで、自分だけでは気づかなかった発見や発想ができた



2. チームでの作業に積極的に取り組むことができた

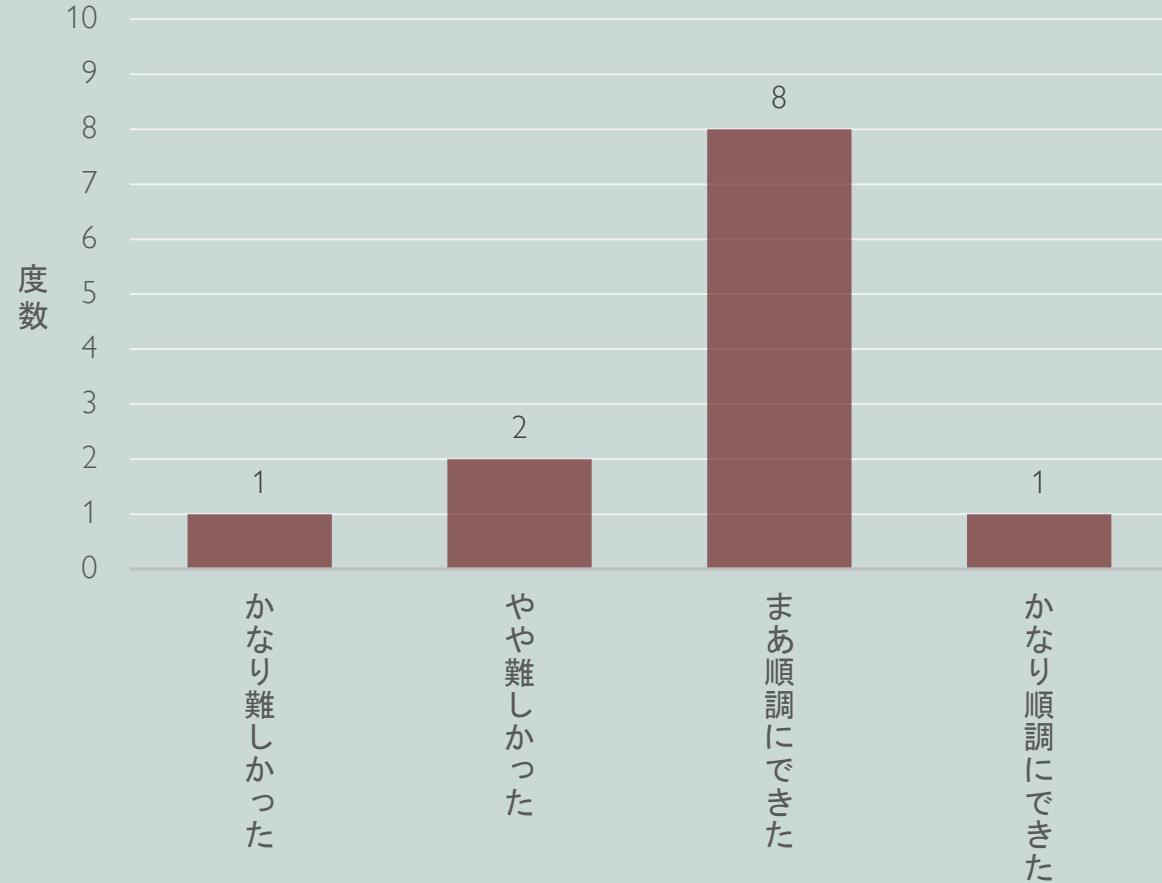


# 実施後の自己評価(達成度)

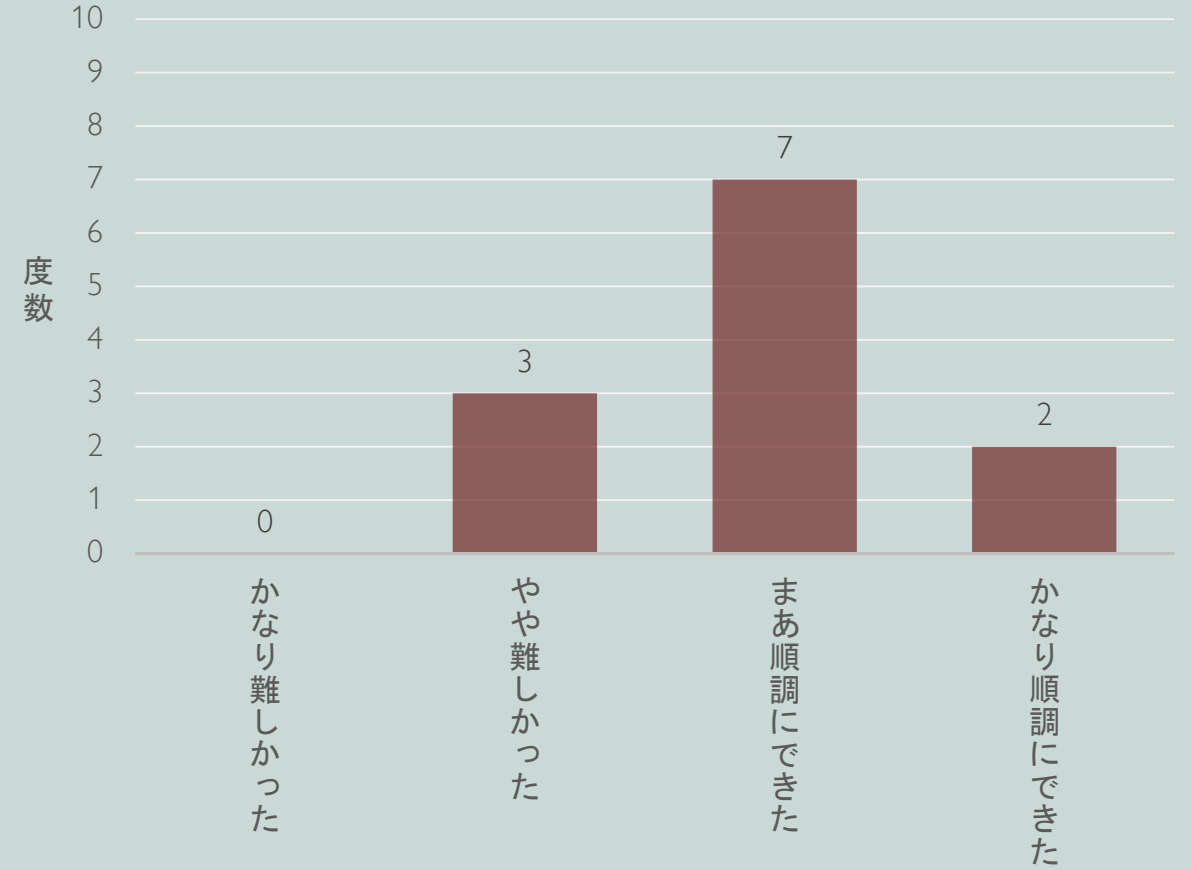


3. フィールドワークを通じて、地域の様々な事象について考えることができた

# 実施後の自己評価(難易度)

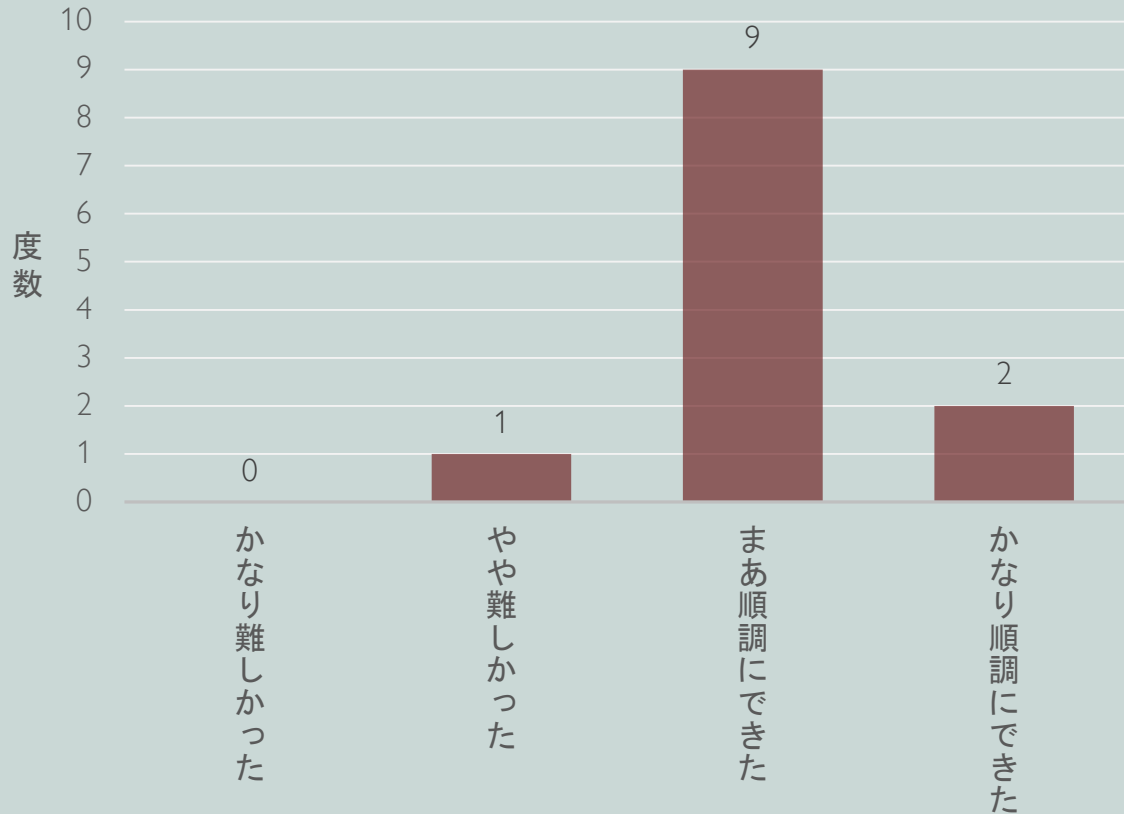


4. 事前の準備作業 (アイデア出し)

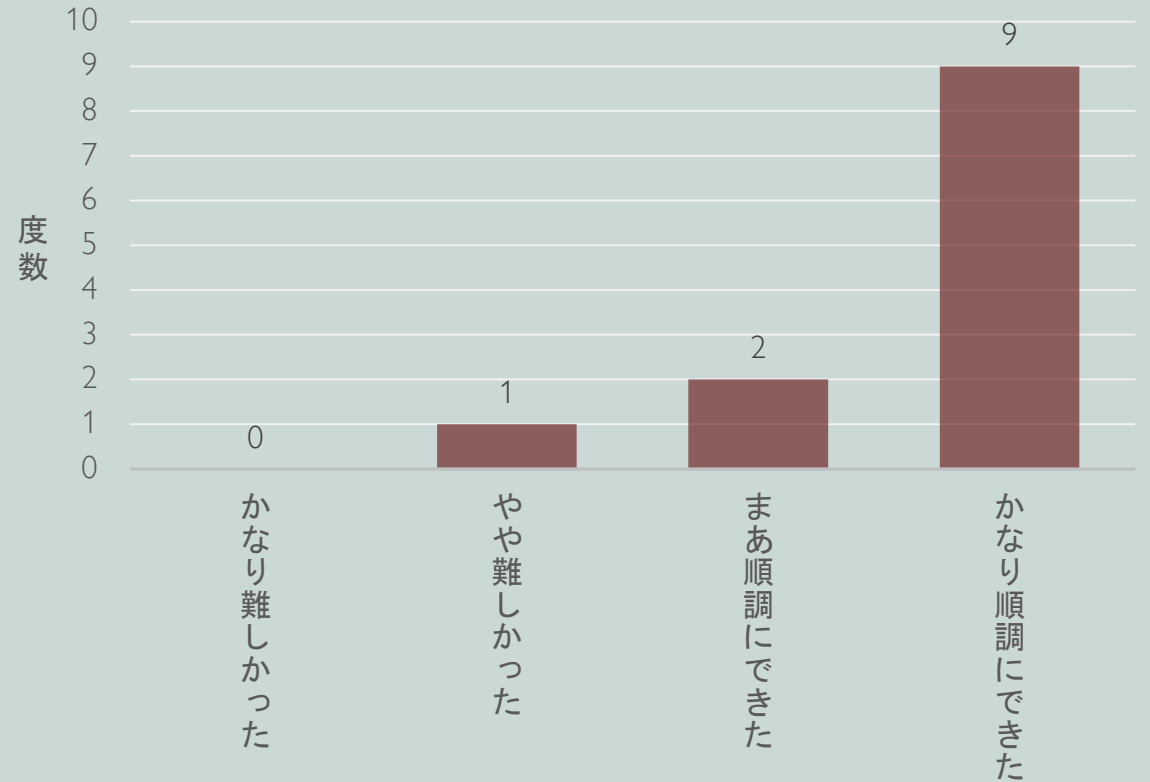


5. 事前の準備作業 (デザインの表現)

# 実施後の自己評価(難易度)

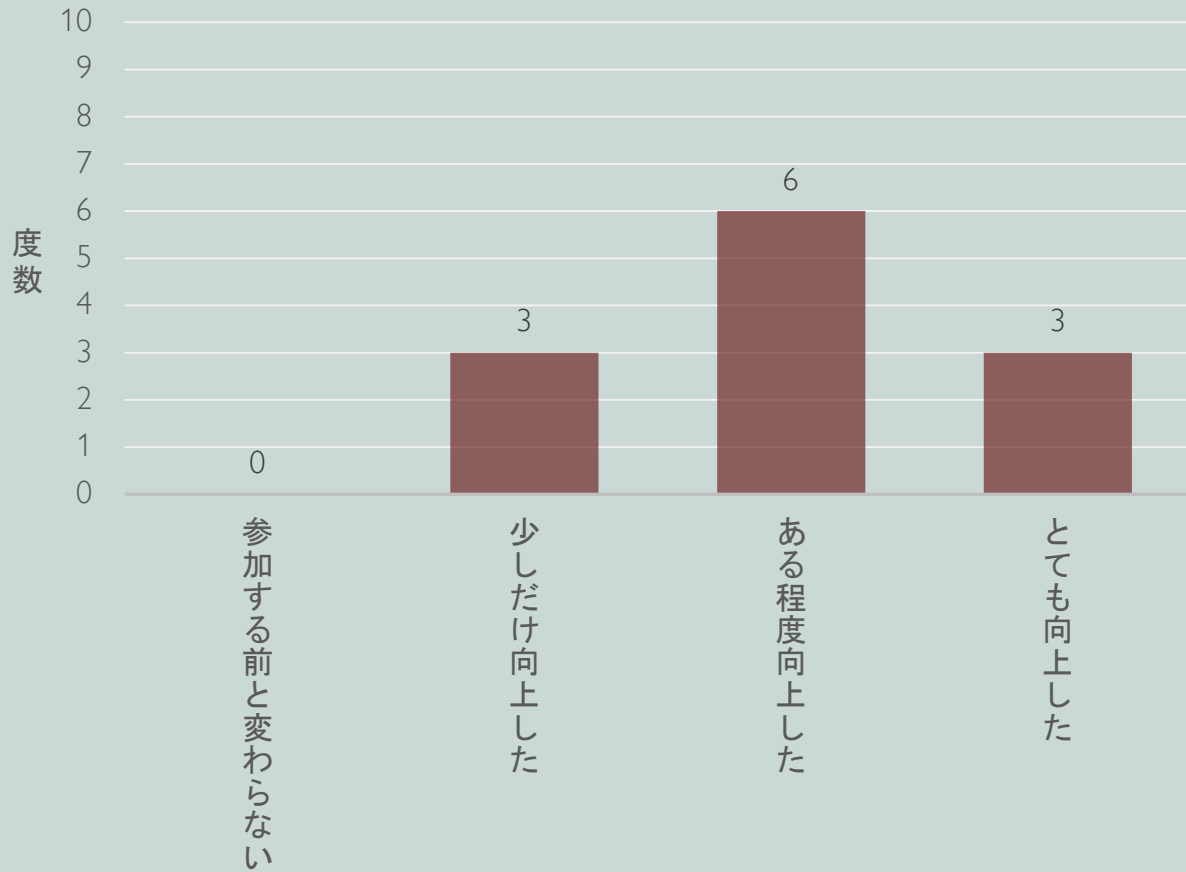


6. チームでの作業と他の課題や活動を行うための時間調整

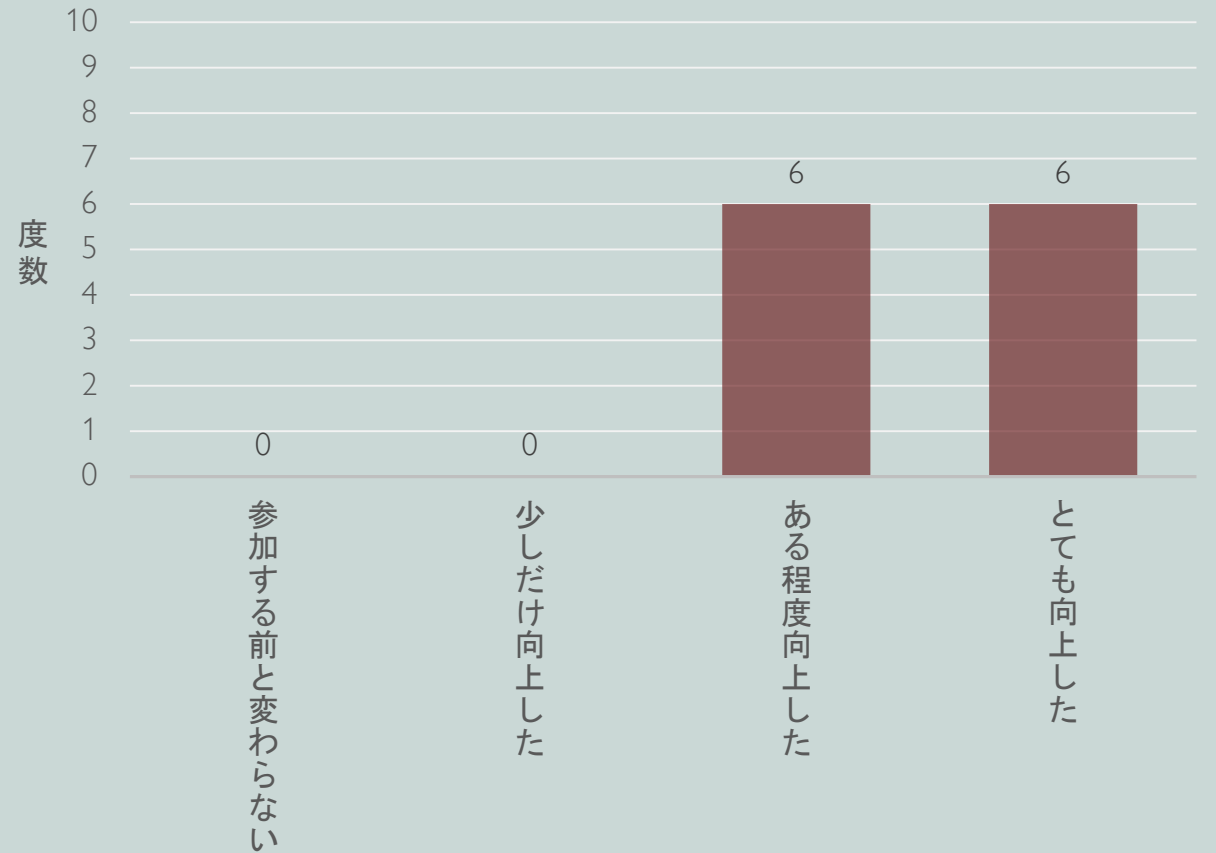


7. 現地（海陽町）での作業

# 実施後の自己評価(身についた能力)

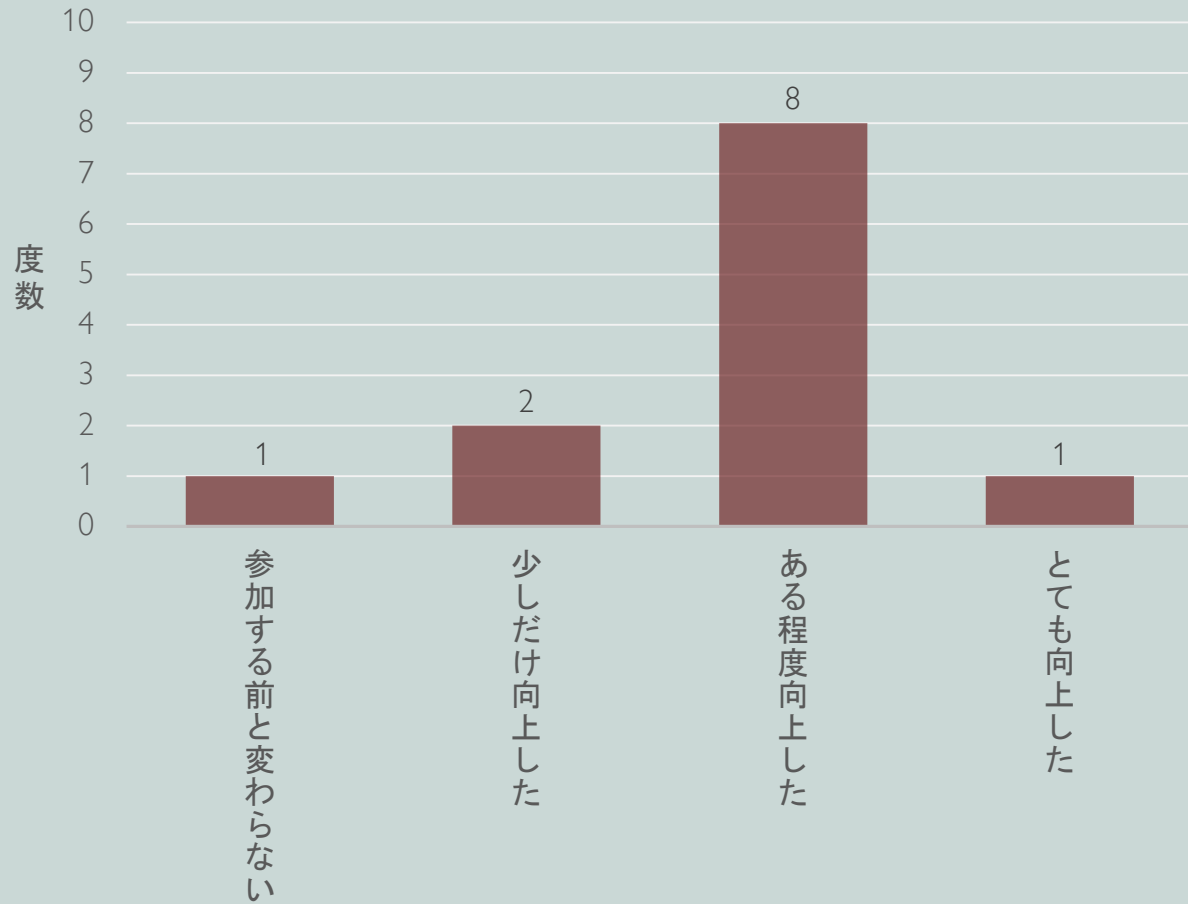


## 1. 創造力

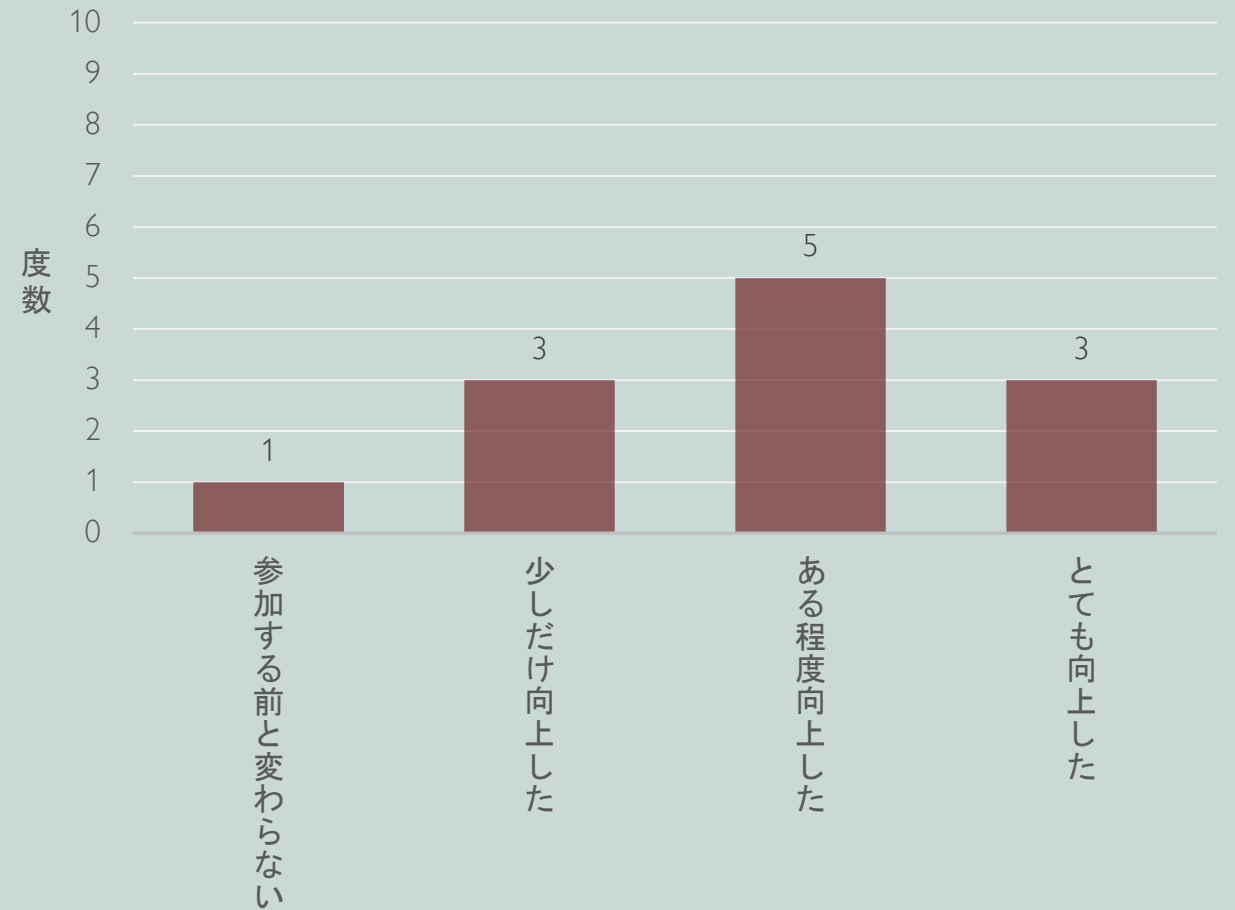


## 2. 協調性

# 実施後の自己評価(身についた能力)

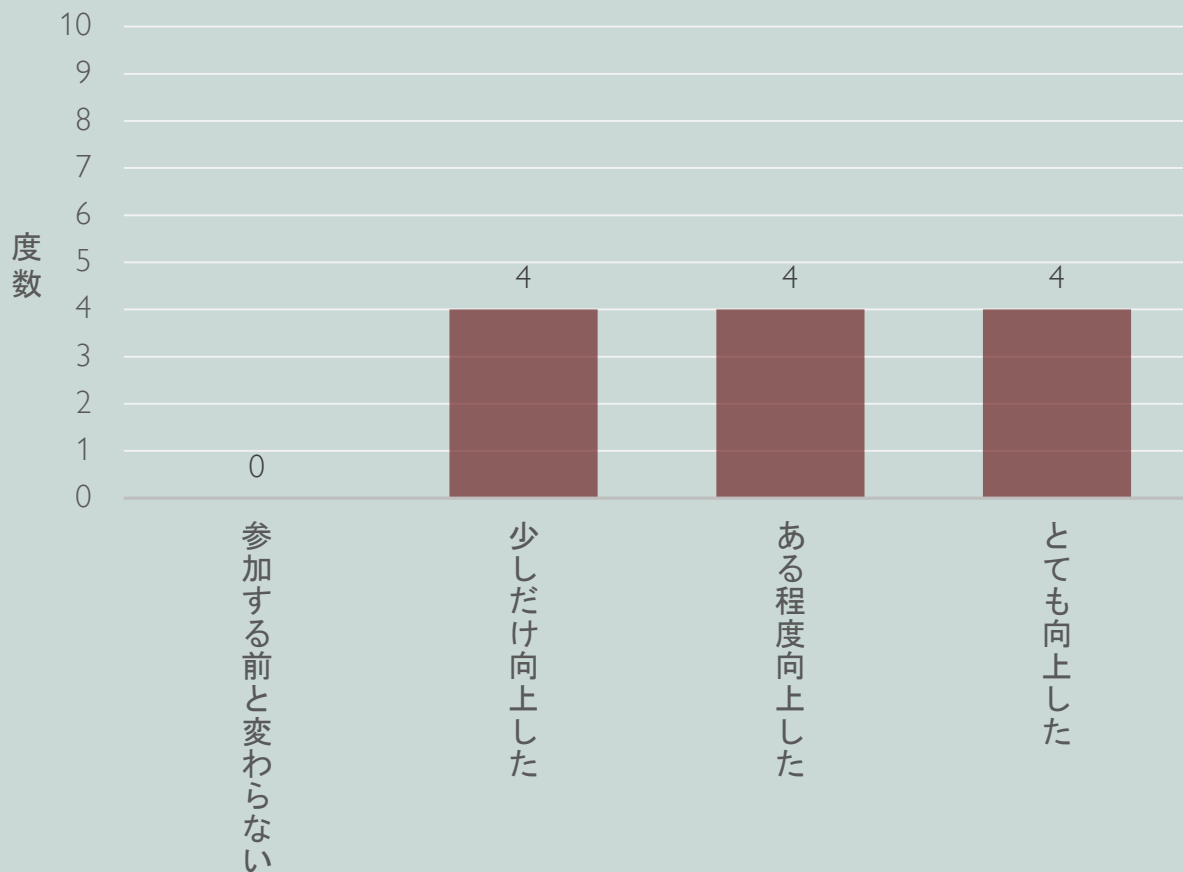


3. 判断力

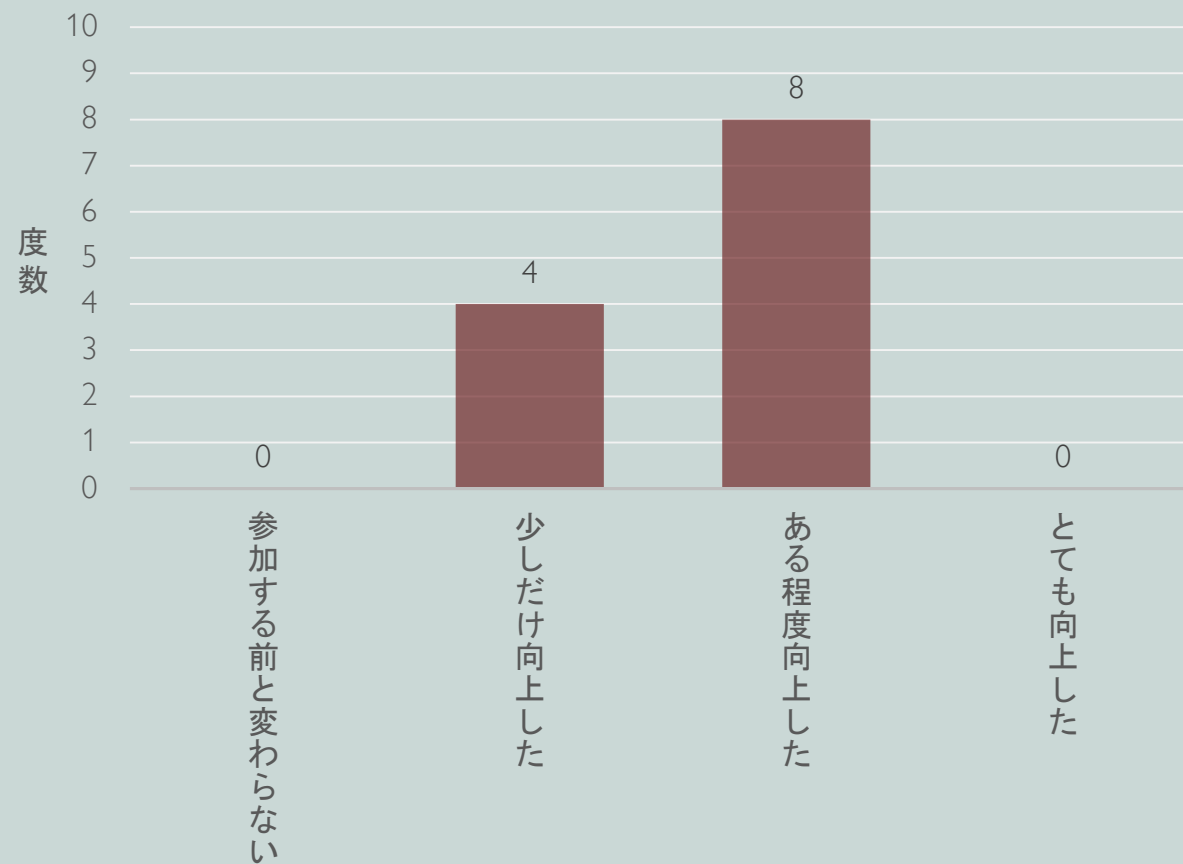


4. 行動力

# 実施後の自己評価(身についた能力)

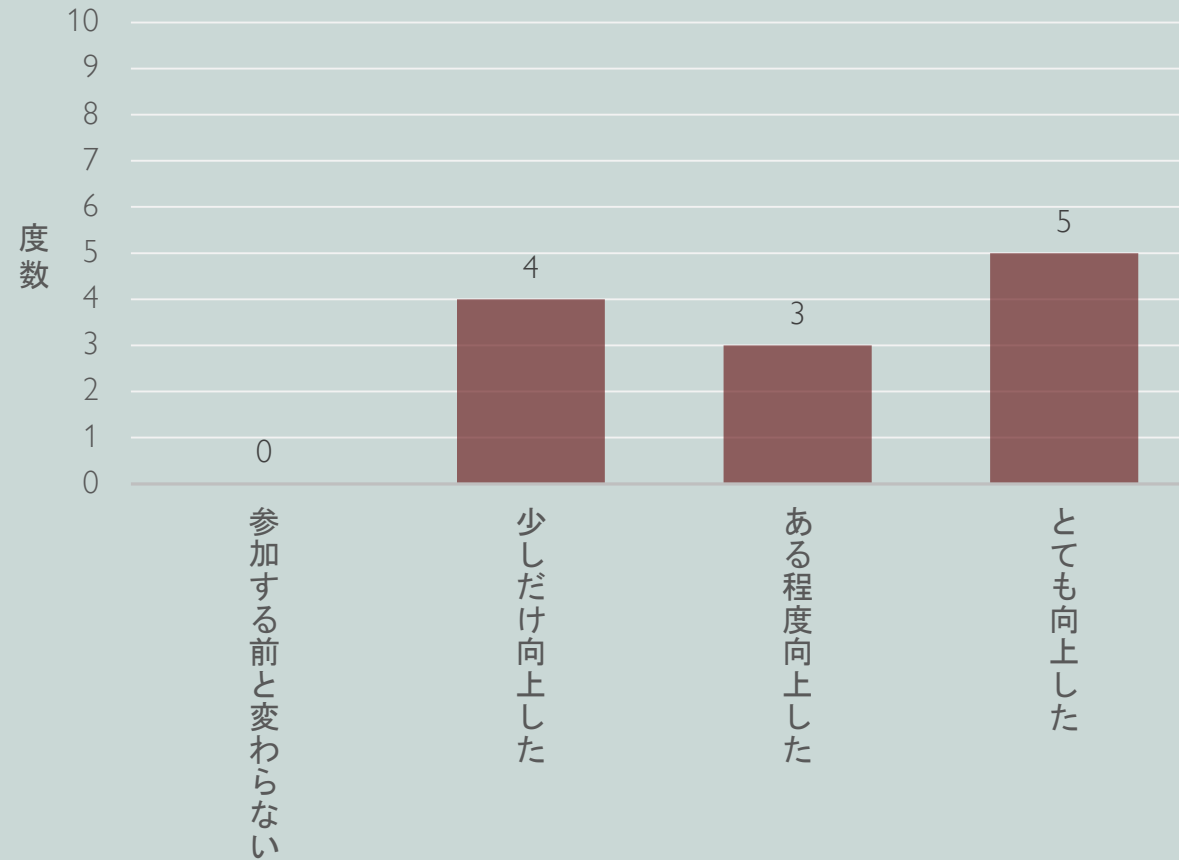


5. 課題に対する理解力



6. 問題を解決する力

# 実施後の自己評価(身についた能力)



## 7. コミュニケーション力

# 苔アートを活用するために



- 海陽町の知名度upのために、観光スポットとなるような場所にする。

➡ PR・広告（SNSを利用して、情報の拡散に努める）

地域活性化のために苔アートを絡めたイベント作りをする。

➡ イベントの開催・ボランティア活動（地域を絡めるイベント作り）



# 挙げられた活用案



## 活用案①

- 写真撮影をして、SNSに投稿



今回の作品は、「映え」がテーマなので、写真撮影をしてSNSに投稿することで拡散されることにより、海陽町に訪れるきっかけになる。

## 活用案②

- イベントを開催する



苔アートを傷つけないためにも清掃などのボランティアなどをはじめ、子供たちが苔削りを体験できるようなイベントを開催する。

## 活用案③

- 雑誌などへの掲載



地元の情報誌や広報誌、パンフレットなどに苔アートについての記載し、旅行客に来てもらえるような呼びかけをする。

# 海陽町を盛り上げる取り組み



SNS映え

広報への  
掲載

とれとれ市  
×  
苔アート

DMV海陽  
町観光名所  
ツアー

# 海陽町を盛り上げる取り組み

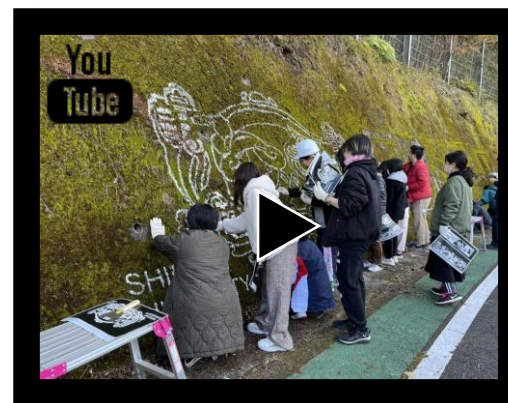


## 【SNS映え】

- ・写真撮影スポットとして地域の方や観光客に訪れてもらう。
- ・撮った写真が海陽町の宣伝効果となる。

## 【広報への掲載】

- ・苔アート制作の様子をスライドショーで流す。
- ・YouTubeで動画を投稿してみる  
(例) 苔アートの成り立ち動画



# 海陽町を盛り上げる取り組み

## 【とれとれ市×苔アート】

- ・お客さんが苔アートを自然と見に来てくれるように導線をつくる
- ・苔アートの場所でもち投げ開催
- ・苔アートメンテナンス体験



プレゼンテーションのタイトル

## 【DMV海陽町観光名所ツアー】

- ・海陽町の観光スポットに苔アートを取り入れツアーを開催
- ・スタンプラリーの実施  
(海陽町の特産品プレゼント)



# 感想 ～フィールドワーク授業に参加して～

完成させるやりがいと  
協力して物事を解決することを学んだ

同年代だけでなく  
海陽町の様々な年齢の方と  
交流する機会になった

徳島の新しい側面を知れた

泊りがけで取り組むことで  
チームワーク向上に繋がった

四国大学だけのイベントではないと実感し  
使命感をもって取り組めた

# 感想 ～海陽町を訪れて～

海の幸やサーフィン  
海との強いつながりを感じた

宿泊先に家族も泊まった経験があるようで  
家族と話すきっかけになった

もっと多くの人に来てもらわないと  
もったいない！

とれとれ市では海陽町民の  
活発な姿を見ることができた

思わず写真を撮ってしまう景観と  
澄んだ空気が心地よかった

# 今後、このような機会があれば参加したいか

